

有明海・八代海等の環境等変化（生物（二枚貝））

二枚貝類について、ここでは資源量が多く有用な二枚貝 3 種について述べる。
 タイラギの漁獲は 1970～1990 年までは数年おきに高い漁獲量が生じたが、長崎県では 1990 年代から、佐賀県・福岡県では 2000 年頃から漁獲がなくなり、以降有明海全域で殆ど漁獲されなくなった（図 1）。

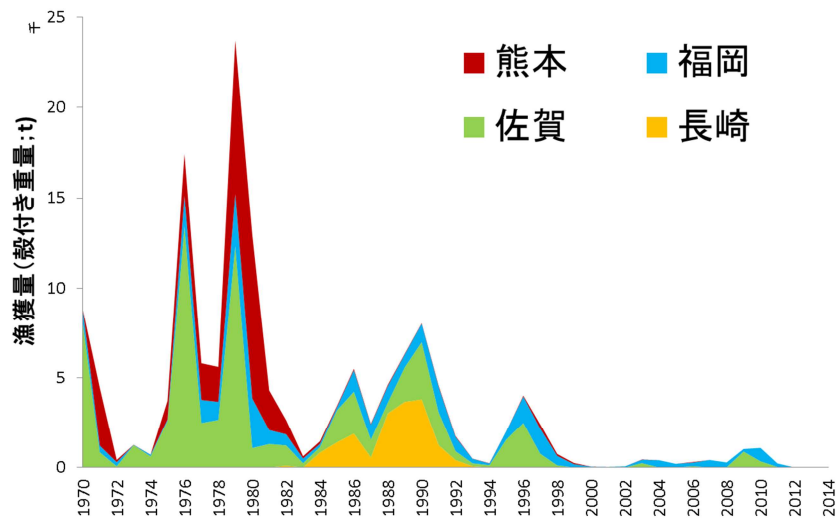


図 1 有明海におけるタイラギの漁獲量の推移

（農林水産統計より環境省が作図した。）

図 2 に佐賀県有明漁業協同組合大浦支所におけるタイラギ漁獲量及び CPUE（CPUE = Catch Per Unit Effort：ここでは 1 日 1 隻あたりの貝柱漁獲量 kg）を示した。漁獲量と CPUE はおおむね同調しており、資源量が高いほど漁獲量も高くなることが推定された。1980 年から 1997 年まで、年変動はあるものの CPUE は 50～450kg の範囲で変動していたが、1999 年から 2011 年までの 12 年間のうち、CPUE がゼロの年が 7 年間発生するなど、資源量悪化によると推定される漁獲量の低迷が続いている。

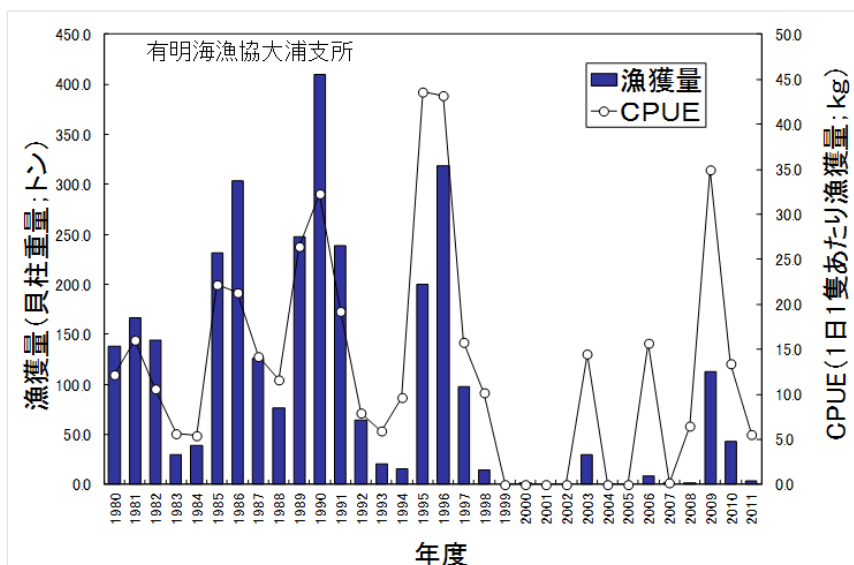


図2 佐賀県海域におけるタイラギ漁獲量とCPUEの変化

サルボウ漁場はA1海域（佐賀県西部及び矢部川河口域）が中心である。佐賀県沿岸においては、1970年代初頭に約1万4千tの漁獲量があったが、その後、斃死（原因は不明）が発生して漁獲量が激減した。斃死は1985年を境に収束し、当該海域の沿岸部で採苗した稚貝を沖合へ移植放流することによる漁場の拡大策もあり、佐賀県での生産量は1万t台に回復した。しかしながら、近年の生産量は減少傾向にあり、変動幅も大きい（図3）。

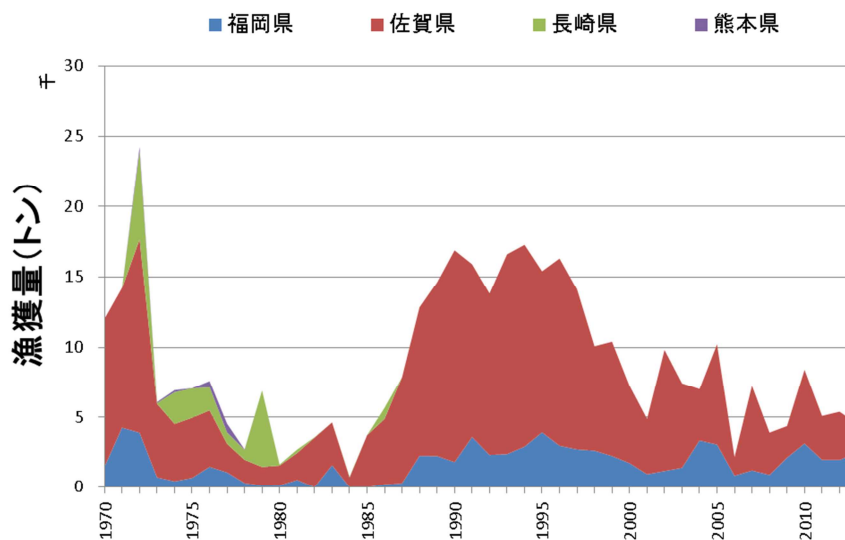


図3 有明海におけるサルボウの漁獲量推移
（農林水産統計より環境省が作図した。）

アサリは熊本沿岸で1977年に6万5千tの漁獲を記録したが、その後減少し、1990年半ばから2千t前後で推移してきた。2005年から2008年にかけて有明海全域で資源が一時的に回復し、2005年の漁獲量は1万tに達した。しかしながら、2009年以降漁獲量が減少している（図4）。

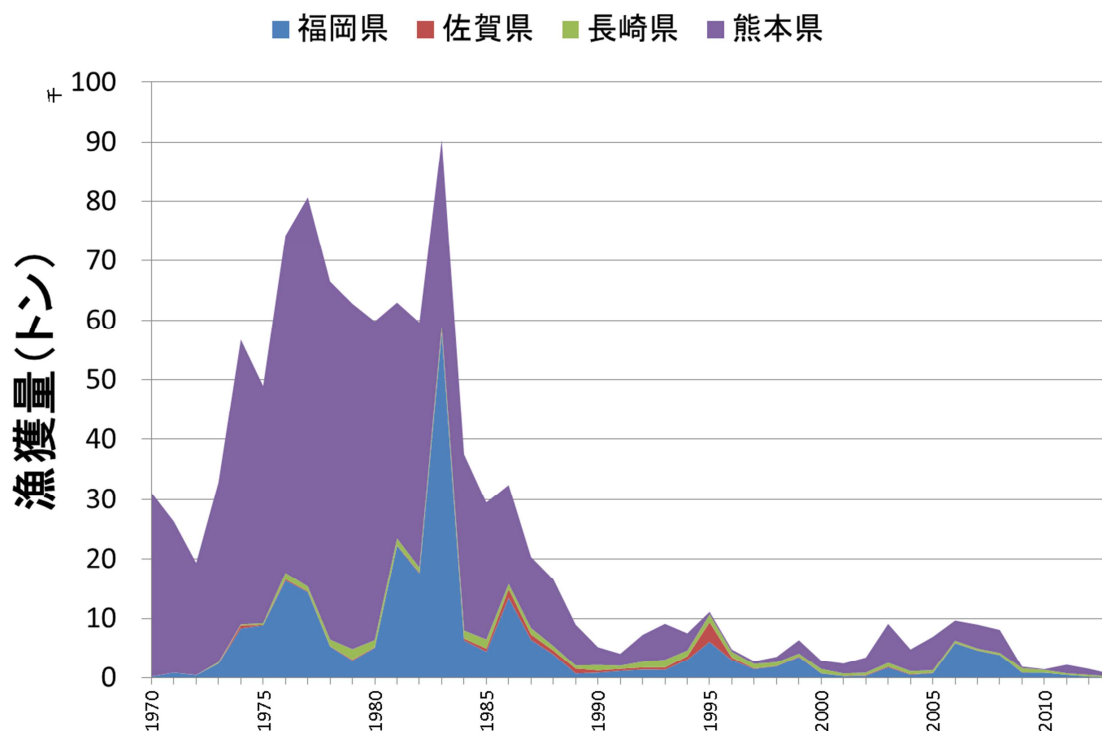


図4 有明海におけるアサリ漁獲量の推移
 （農林水産統計より環境省が作図した。）